

10/25

第1回アレ!アレ!レクスポ大会

～田布施町老人クラブ連合会～



TAIKOスポーツセンター田布施において田布施町老人クラブ連合会の『第1回アレ!アレ!レクスポ大会』を開催しました。

大会は装いも新たに町老人クラブ連合会の愛称『アレッチャ・アレーネたぶせ』のレクリエーションやスポーツ大会を略した名称とし、新しい競技にも挑戦しました。

屋内では『ちょうどええ体操』、屋外では『歴史探訪ウォーク』と『健康ウォーク』にわかれ、秋晴れのなか会員同士の交流を図り楽しみました。

▼ちょうどええ体操の様子



▼歴史探訪ウォークの集合写真



まちのできごと

Tabuse
Town News

11/15

田布施総合支援学校小中学部CS農園

『ふれあいサツマイモ掘り』

田布施総合支援学校小中学部校舎のCS(コミュニティ・スクール)農園で、中学部の生徒が、田布施地域交流館にサポートいただき、農家の皆さんや田布施中学校の生徒と一緒に『ふれあいサツマイモ掘り学習』を行いました。このサツマイモは、6月に農家の皆さんと植えたものです。

田布施中学校の生徒と協力して大きなサツマイモを収穫したり、農家の皆さんと語りながら和やかにイモを掘り出したりするなど、大変盛り上がりしました。



11/9

高齢者の交通事故防止に向けたメッセージ伝達

田布施町連合婦人会交通安全母の会の皆さんが、高齢者の交通事故防止に向けたメッセージの伝達に訪れました。依然として高齢者の事故率や、交通死亡事故に対する高齢者率が高く、令和4年10月は県内で6件の交通死亡事故が発生しており、県下全域に交通死亡事故多発高齢者警戒情報および特別警戒情報が発表されました。

このようなことから、これ以上悲惨な交通事故が発生しないよう、住民が安全に安心して暮らすことができる『交通安全県やまぐち』の実現に向け、町長にメッセージを伝達されました。



11/15 大晃機械工業株式会社から年賀はがきを受贈

大晃機械工業株式会社から、『サンキュー♡年賀(くじ付き年賀はがき)』が町に寄贈されました。

大晃機械工業の山根雅和専務取締役(写真右)から、「手書きの良き文化を守り、年賀状を使い、感謝の気持ちを伝えてほしい。また、将来の夢についても書き加え、文字化することにより、目標の実現に向け励んでほしい。」という趣旨で寄贈いただき、町内小・中学校の全児童生徒に配布しました。



たぶせの子育て応援団

～ 令和4年度やまぐち地域連携教育の集い ～

11月10日(木)にサンビーム柳井で、『令和4年度やまぐち地域連携教育の集い(東部地域)』が開催され、田布施西小学校が実践発表を行いました。

これまでの活動で印象に残っていることや学校と地域と一緒に活動することの良さなどについて、田布施西小学校の児童・教職員と地域の方にお話を聞きました。



◀インタビューにご協力いただいた味香さん・吉浦教諭・中屋さん(右から)

＝ 子どもを中心に積極的な活動を。そして地域はどう協力できるか ＝

○学校と地域が一緒になって、活動することの良さを教えてください。

子どもが地域の行事に参加してくれて、手伝ってくれるのはとても助かります。花の苗の植替え作業や、文化祭の準備に子どもが来てくれました。お年寄りも子どもが来るとな

Ⅱ 地域の方々 Ⅱ

○地域の方々と一緒に活動してきた中で印象に残っている活動は？

地域の方と一緒にグループを組んで田布施町のことに初めてたくさん話せたことや、6年生になって初めての学校運営協議会のときに、地域の人(見守り隊)と仲良くなれたことです。

○活動の中で心がけてきていることを教えてください。

『田布施町の良いところを言ってよりよくしよう!』と心がけながら活動しました。また、帰り道などで自然があふれているところなど、田布施町の良さを発見しながら、グループで発表しようと心がけました。

○学校と地域が一緒になって、活動することの良さを教えてください。

児童と地域との話し合いの場を持つことによって、「こういう問題の解決に取り組んでみよう」という具体的なイメージをもつことができたかなと思います。さらに、これから具体的な取組を「やっついでいこう!」ということにも繋がっているのかなと感じています。

Ⅱ 田布施西小学校 児童・教職員 Ⅱ

ると活気が出て、一緒に活動することが楽しいみたいです。

子どもは、自分達の植えた苗を学校や地域に配るので、「この苗は自分達がやった分だ!」となって、地域に貢献していることが実感できるようになります。こうした活動を通して子どもが地域の一員となることに加え、学校が地域にとって身近になることが一番です。子どもと一緒に活動することが生きがいややりがいにもなります。

○児童・教職員・保護者・地域の方と行った話し合いを通して感じられたところは？

自分の意見を言っている児童がいて、「子どももこんなに考えているんだ」という新鮮な驚きがありました。

今までは児童と先生、先生と地域。このような形で子どもとは直接繋がってなかったのですが、直に子どもから意見を聴き、地域からの意見も子どもに伝えられたので、今までは違うなと感じています。

子どもがいろいろ発信したことを今度は地域の人が『どう叶えてあげられるか、どう協力できるか』がとても大切なことだと思います。



▲インタビューにご協力いただいた三輪さんと松根さん(右から)